



MESSAGE NOTES

いつまでも残るものは何？

コリント人への第一の手紙 13章 13節

ロイド フラハティ

コリント人への第一の手紙 13章 13節 「こうして、いつまでも残るものは、信仰と希望と愛、この三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。」

パウロはコリントの教会への手紙の中で、多くの靈的な賜物は一時的なものですが、信仰・希望・愛は永遠に残ると語っています。

1. 信仰は「信頼」から始まる

信仰は、イエス・キリストとの関係の最初の一歩です。それは、神様のご性質を信頼することから始まります。私たちは神様を信じて、「従ってみよう」と決心するのです。

マルコの福音書 1章 17-18 節 イエスは彼らに言わされた。「わたしについて来なさい....」すると彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。

2. 信仰は行動で応える

信仰は受け身ではありません。信仰は行動します。信仰は一歩を踏み出します。

ヤコブの手紙 2章 17 節 それと同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。

3. 信仰は常にイエス様に目を向け続ける

ヘブル人への手紙 12章 2 節 信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

まとめ:

私たちが今日、信仰をもって歩むとき、神様は私たちの心の中に希望を育み、私たちの人生を愛で満たしてください。

イエスを信頼し、行動し、イエス様に目を向け続ける人になりましょう。